



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 3 月 第 28 号

平山小学校の皆さんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

6 年生、ご卒業おめでとうございます。6 年間の小学校生活はどうでしたか？来年度からは中学校での新生活が始まりますね！3 年間はきっとあつという間です。楽しいことや嬉しいことだけでなく、辛いことや苦勞したことも全て含めて、自分を成長させてくれる大事な瞬間です。これからも応援しています！

さて、先月、日本の新聞でも取り上げられていましたが、ナミビアで大きなニュースがありました。ナミビアの初代大統領であり、ナミビアの独立に大きく貢献した人物、Sam Nujoma (サム・ヌジョマ) 氏が 2 月 8 日に 95 歳で逝去され（亡くなられ）ました。

今日は少し難しい内容になってしまうかもしれませんが、サム・ヌジョマ氏をはじめ、ナミビアの歴史において重要な役割を果たした人物のうちの 4 名を紹介したいと思います。

ナミビアの独立に貢献した人々

①サム・ヌジョマ (Sum Nujoma) 氏

1915 年、南アフリカが現在のナミビアの土地を「南西アフリカ」として統治し始めました。この時の南アフリカによる統治は、国連に認められたもの（信託統治）でしたが、第二次世界大戦後は国連が承認していないにもかかわらず、南アフリカが不法で南西アフリカを支配し続けました。

この南アフリカによる不法統治から解放されることを目指し、1960 年にオバンボ族（現在のナミビア人の約半数を占める民族）を中心とした SWAPO (スワポ) と呼ばれる党が設立されました。この党が 1989 年の独立選挙で勝利したことにより、翌年 1990 年の 3 月 21 日にナミビアという国が正式に独立しました。その際の SWAPO の議長がこのサム・ヌジョマ氏です。彼はナミビアの独立に大きく貢献したため、ナミビアを建国したとして「Founding father (建国の父)」と言われています。また、この 1990 年に、彼はナミビアの初代大統領に就任しました。

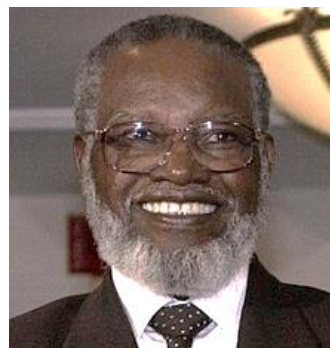
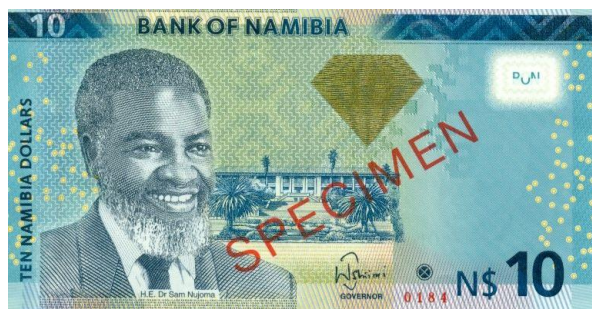


写真 ([Sam Nujoma - Wikipedia](#))

参考：ナミビアを知るための 53 章 (明石書店)



写真：Bank of Namibia ([Bank of Namibia - Namibian Notes](#))

ナミビアのお札 (10 ナミビアドル、20 ナミビアドル) には彼の肖像が描かれています。また独立 30 周年を記念して発行された 30 ナミビアドル札には、彼を含めた第 3 代までのナミビア歴代大統領 (2 代目ヒフィケプンエ・ポハンバ氏、3 代目ハーゲ・ガインゴブ氏) の肖像が描かれています。

②ヘンドリック・ウィットブーイ (Hendrik Witbooi) 氏

現在のナミビアにあたる土地は、1884 年に「ドイツ領南西アフリカ」としてドイツの植民地とされました。もともとこの土地にはナマ族(南部)、ヘレロ族やダマラ族(中部)、オバンボ族(北部)などの先住民族が暮らしていました。その先住民族のナマ族がドイツの侵略に抵抗して戦いを起こした際に、指揮をとった人物がこのヘンドリック・ウィットブーイ氏です。彼が書いた日記は、2005 年にユネスコの「世界の記録 (Memory of the world)」という歴史的文書の保護と活用を目的とした事業に登録されています。



写真: (Hendrik Witbooi (Nama chief) - Wikipedia)

参考: ナミビアを知るための 53 章 (明石書店)



ナミビアのお札(50 ナミビアドル、100 ナミビアドル、200 ナミビアドル)には彼の肖像が描かれています。

写真: Bank of Namibia (Bank of Namibia - Namibian Notes)

③サミュエル・マハレロ (Samuel Maharero) 氏

②で紹介したヘンドリック・ウィットブーイ氏はナマ族の首長でしたが、このサミュエル・マハレロ氏は、中部で暮らしていたヘレロ族の首長です。ヘレロ族といえばオシカイバ(Otjikaiva)と呼ばれる牛の角を意味する帽子(※1)が特徴的なのですが、この帽子からもわかるようにヘレロ族にとって牛は生活に欠かせない重要な存在でした。しかし、ドイツ植民地時代に牛の伝染病が流行した際、ドイツは自分たちの牛に優先的にワクチンを打ち、ヘレロ族の牛の9割以上はワクチンの投与を受けられずに命を落とすなど、ドイツの差別的な支配にヘレロ族の不満は高まっていたそうです。そして1904年にサミュエル・マハレロ氏率いるヘレロ族は、ドイツ軍に対し反乱を起こしました。



↓ (※1)



写真: (Samuel Maharero - Wikipedia), (Herero people - Wikipedia) 参考: ナミビアを知るための 53 章 (明石書店)

④ホセア・クタコ (Hosea Kutako) 氏

③のサミュエル・マハレロ氏が率いた反乱に指揮官の1人として参加した人物で、後にヘレロ族の首長にも任命されました。南アフリカによる統治時代、彼が国連に対して、南アフリカの統治を終わらせるよう求めた請願書を多く提出したことで、国連が南アフリカによる統治は違法だという勧告を出しました。これはナミビアを独立に近づけた重要な出来事です。現在は「ホセア・クタコ国際空港」として首都にある空港に名前が使われています。



写真: (The Namibian -) 参考: (Bust of Chief Hosea Kutako | United Nations Gifts)